

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770500710		
法人名	株式会社ふれあい愛知介護センター		
事業所名	グループホームふれあい愛知		
所在地	沖縄県宜野湾市愛知3-17-20		
自己評価作成日	平成31年2月25日	評価結果市町村受理日	令和元年 6月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyoNoCd=4770500710-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成31年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも笑顔が絶えない雰囲気作りや、入居者様一人ひとりを尊重した丁寧なケアを心がけています。法人の他事業所との合同行事や、計画を立てての外出行事で交流の場を楽しんだり、好きな事や出来る事を探して日中の活動に取り入れてみたりの個別支援もしています。職員全体が個々のケアについてよく話し合い、前向きな姿勢で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は平成30年4月開所で、複合施設の2階にあり、併設の小規模多機能デイサービスと日常的に交流している。1階にデイサービス、3階に有料老人ホームがあり、夏祭りや敬老会等の行事は4施設合同で実施している。パンが好きな利用者のためにパンが買い置きされ、利用者は遅めの朝食等、自分のペースで食事を摂っている。利用者の能力を活かした支援に努め、たこ焼きや餃子等のおやつ作りに参加し、配膳や片付をする方もいる。昼食後、利用者はテレビ画面に映し出される日常活動の様子を紹介したスライドを楽しんでいる。利用者の希望に応じて個別活動計画を作成し、月に1人ずつ担当職員と1対1で外出や外食をする支援を行っている。資格取得に向けた助成金制度等を設け、職員の研修受講を推奨して勤務調整する等、職員の頑張りを評価するように努めている。今回、全職員が自己評価を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時のオリエンテーションや日々の申し送り時に理念について共有できる場がある。	昨年4月に開所し、全職員で理念を作成している。理念の「みんな家族 頼り頼られ 協力し合い」のもと、事業所を自宅として、利用者の能力や役割を活かした支援に努めている。職員は、利用者と一緒に家事をしながら、経験豊富な利用者から学ぶことも多い。理念にある「たくさんの笑顔を応援します」を意識して、「本人の能力を奪わない介護」「待つ介護」の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントへの参加や事業所の近くにあるスーパーへの買い物で顔見知りの関係性が出来てきている。	複合施設のため、同じ階にある小規模多機能デイサービスと頻りに交流している。施設合同で流しそうめんやスイカ割等の行事を行い、合同敬老会に空手道場の子どもたちが演舞を披露している。地域の夏祭りに参加している。複合施設の1周年感謝祭に地域住民を招待してバーベキュー大会を行ったり、施設行事へボランティアが参加するなどで交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協との共同で小学校への福祉体験授業への講師派遣や管理者がキャラバンメイトの資格を持っているので、サポーター養成講座の開催を地域に対して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催しており、ご家族や市役所職員、包括センターのスタッフや訪問看護のナースに参加いただき日頃の様子や活動報告を行っており、その中で出た意見を参考にし業務の改善に努めている。	運営推進会議は年6回開催され、利用者や家族、市職員、包括支援センター職員、訪問看護師が参加し、利用者の活動状況をスライドショーで紹介し、事故報告等がなされている。しかし、利用者や家族の参加が少なく、地域代表は不参加で、知見者の委員が未定である。訪問者への議事録の公表がされていない。	運営推進会議は、構成員による事業所運営について必要な要望、助言を聞く場であるため、利用者や家族、地域代表、知見者の参加、及び議事録の公表が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	宜野湾市のグループホーム連絡会に市役所職員に参加いただき、その中で困りごとの相談や意見交換を行っており互いに協力できる関係を構築している。	運営推進会議に市職員と包括支援センターの職員が毎回参加しており、利用者の状況や事業所の取り組みを伝え、助言を得ている。市のグループホーム連絡会に市職員も参加して3カ月ごとに実施されている。市からは勉強会や連絡事項の案内があり、相談や情報交換が行われている。市からの困難ケースの相談には、小規模多機能での対応となった事例がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて、身体拘束についての勉強会を年に1度開催している。又、身体拘束に該当するか不安な場合はその都度情報の共有を行いカンファレンスの時に検討会を開催している。その中で身体拘束適正委員会を立ち上げ、報告や相談を行っている。	身体拘束等の適正化のための指針を作成し、身体拘束等適正化委員会を3カ月に1回開催して全職員が参加している。結果は運営推進会議に報告されている。身体拘束や権利擁護の勉強会を実施して情報の共有を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒リスクの高い利用者は、家族と相談して夜間のみセンサーを使用し、転倒防止に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強を年間の研修計画に組み込んでおり、日々のケアの中で不適切な対応にならないよう、疑問に思った際は職員で情報の共有を行い、ミーティング内で話し合いの場をも受けている。	高齢者虐待防止マニュアルが整備され、ミーティングや勉強会で不適切なケアについて話し合い注意を促す等、情報の共有を図っている。職員は、法人研修や外部研修を受講し、資質向上に努めている。毎月、複合施設内の管理者ミーティングが行われ、管理者間での伝達事項や不適切なケア等の情報交換がなされ、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度社内研修会において、権利擁護について学ぶ機会を設けている。又、県のグループホーム協会主催の研修会に職員を派遣しそこで学んだことをミーティングや朝礼の時に共有している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はその後で説明、同意を得てからの契約を行っている。ご家族様から契約内容について質問があった際には個別にご理解いただけるまで説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族が来所された際に近況報告を行いその中でご家族様から意見があった際には日ごろのケアに生かしている。離床センサーによる、法人と家族様の意見のすり合わせも行った。	利用者との会話は、本人ができることや役割を探す時間と捉え、家族からは面会時に意見を聞く機会としている。家族会で、利用者の生活状況や事故報告等もやっている。重要事項説明書で「入居者相談委員会」が明記され、苦情相談等について対応している。1階に意見箱も設置されている。外部の苦情窓口として、市の長寿課や国民健康保険団体連合会等を説明している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングやカンファレンスの中で職員から意見を聞く機会を設けている。又、個別での相談も受け付けており、業務の合間等に時間を見つけて相談できる環境づくりに努めている。	ミーティングを職員の意見や提案を聞く機会としている。物品や薬、居室の管理等の役割担当を定期的に変更している。新規の入居者の場合は職員に事前に相談し、情報提供を行っている。今回、外部評価の自己評価を全職員が実施しており、サービスの質の向上や運営体制を学ぶ機会と位置付けている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約社員から正社員雇用制度、各種資格手当を設けており本人の資格取得に向けた助成金制度等の整備がある。	法人の就業規則で正社員雇用制度や資格手当、資格取得に向けた助成金制度が整備されている。研修計画を作成し、実務者研修や実践者研修等への参加を勧め勤務調整も行っている。職員の処遇体系を見直し、職員の頑張りを評価できるシステム作りに努めている。夜勤は5人の職員で対応し、夜勤職員は年2回の健康診断が実施されている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所の毎月のミーティング内で勉強会を開催しておりケアの方法や認知症についての研修を行っている。又、グループホーム協会や外部の研修等へも職員を派遣しており職員が積極的に参加できるようシフトの調整等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一般社団法人沖縄県認知症グループホーム協会に加盟しており、協会主催の研修や集まりに管理者、職員で参加し、他事業所等との交流を深め意見交換や連携を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の相談があった際はご本人と直接会い、現在の困りごとや不安等に真摯に向き合いご希望や要望に沿えるようなサービスを目指し、何でも話しやすい環境、関係性作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談があった際には、ホームの見学を進めており当事業に入所した際にできる事、やご家族のニーズ、ご本人の希望等について話し合い、ご家族様と一緒に考える環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度の要望があり、何が今必要かを情報提供し、サービス提供に繋げていけるように努めている。その際、自社の関連出来るサービスとの関わりもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る家事を一緒に行ったり、余暇の時間を共に過ごす等、24時間生活の場として本人のリズムを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所されてからの状況の変化や、今後も安心して生活出来る場である環境を職員間で作っている。面会時、気になる事を常に職員が聞け、皆で情報交換している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物やドライブ等で外へ出た際、住み慣れた地域も一緒に回り思い出を大切にしている。又、在宅への外泊もある。	入居前の実態調査で本人や家族からの聞き取りを行い、馴染みの人や場との関係性の把握に努めている。馴染みの美容室に家族と出かけたり、友人とランチのため外出したり、元職場の同僚や教会の友人が訪ねてくることもある。結婚式や法事に外出する利用者もいる。ドライブは利用者の行きたい所を確認し、自宅近辺に出かける等、関係が途切れない支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の特徴を把握し、楽しく会話出来る場の提供や関係作り、私たちも間に含めた明るい雰囲気的环境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にもご家族様から相談があった場合、必要に応じて支援や話し合いの場を設け、ご家族様との関係を切らない事業所作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけや本人様の表情、又は、語られる話の内容から「～では？」と常に意識しながら支援している。家族様からの気持ちも組取れるよう、ちょっとした事でも何がベストなのかを考えるようにしている。	職員は担当制で、利用者との会話から本人の意向の把握に努めている。発語が困難な場合は、家族に聞いて本人本位で検討している。酒、たばこの意向把握もあるが、希望する利用者はいない。帰宅願望のある利用者の家族と連絡をとり、面会に来てもらうよう対応している。利用者が自宅と思ってもらえるよう、時間はかかるが「待つ姿勢」での対応を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に家族からの情報が得られたり、日々の生活の中での状況報告をする事で把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日1日の状態に合わせ、ご本人のペースで無理のないよう様子観察しながら配慮している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人一人に担当職員を設け、日々の様子や変化の把握に努め、カンファレンスやミーティング等で職員やご家族様との情報の共有を行い適切な支援が行えるよう努めている。	サービス担当者会議は利用者や家族、職員が参加して利用者の意向を確認し、現状に即した介護計画を作成している。介護計画は長期目標1年、短期目標3カ月が設定され、モニタリングは全職員で3カ月ごとに行っている。月1回カンファレンスがあり、定期的な見直しや状態変更による随時見直しも行われている。介護計画が反映される記録の作成のため、プラン内容が介護記録に添付されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録や定期的に行っているカンファレンスを行っており、その都度介護計画の内容を見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様からの希望に合ったサービスが提供できるよう外部のサービスなどを活用している。又、訪問リハや訪問看護等との多職種連携を行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設行事の際には、ボランティアや地域の方の参加していただき、一緒に活動を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	Drや看護師等に詳しく情報提供できるよう、情報提供書の作成や職員での病院受診対応を行っている。	受診は、かかりつけ医の継続を基本とし、受診時は情報提供書を持参し、結果は家族や職員から口頭で得ている。週1回、訪問看護師が来所している。利用者の状態により訪問診療につなげる必要がある場合は、複数の医療機関を提示して本人と家族に選んでもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日の訪問看護来所時に入居者の様子や状態の変化を情報提供している。又、訪看時にご家族への来所を呼び掛けており、専門的な知識を生かした助言等を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供をし、入退院後の連携に努めている。書面、状態観察の為の面会も行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化があった際は、ご家族に意向を伺い施設で看取り対応可能である事を伝えている。重度化リスク、終末期の在り方を説明してケア方針と一緒に考えていく。	「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」と「ターミナルケア・精神的ケアマニュアル」を整備している。急変時や危篤時の治療と対応方法については、本人・家族に説明して同意書を得ている。看取りを希望している利用者があり、職員はミーティングやカンファレンスで話し合い、外部研修受講者の報告会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の研修計画に応急救護や救急法を組み込んでおり、緊急時や事故発生時の対処法をシミュレーションしている。又、訪問看護師から処置や予防法等レクチャーしてもらい発生時に迅速に対応出来るよう心掛けている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設合同で、年2回地震・火災を想定した避難訓練を職員全員へ参加を呼びかけ訓練を実施している。又、ご家族・ボランティア・地域の方へ参加を呼び掛けており、訓練後の話し合いの場にて意見交換を行い気づきや改善点、反省点を今後の対策に生かしている。	地震と風水害、防火に関する防災マニュアルを整備し、昼夜を想定して、年2回の総合訓練を消防に届け出て4施設合同で実施している。実施後は、消防士や消防機器業者も参加して反省会を開催し、消防から「防火管理者資格は各管理者が持つことが望ましい」等の総評を得ている。訓練に地域住民の参加が得られることに期待したい。	災害に備えて、利用者と職員分を含めた食糧の備蓄、及び備品等の準備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の個性を尊重した声かけやケアを心がけている。トイレや入浴の際も同性介助を意識して支援できるよう努めている。	入浴や排泄の支援は同性介助に努めている。利用者を「〇さん」と呼び、コミュニケーションの取りにくい利用者には寄り添い時間を共有するケアに努めている。職員の不適切な言葉かけに対しては管理者が注意をし、職員からはミーティングで、「この対応で良かったですか？」等の相談がある。利用者の個人ファイルは鍵付きの書庫に保管している。	個人情報保護方針、及び利用目的の事業所内への掲示が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員へ希望が伝えられ、職員側も傾聴の姿勢を持ち、ご本人様からの声が聴けるよう待つ事を意識している。	/	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの暮らしスタイルに合わせ、ご本人様のペースで生活して頂いている。入浴や食事時間等も要望に合わせて行っている。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを自分で行っていたり、化粧もご自身で行っていたりする。行きつけ美容室に出かけたり、移動美容室を利用されたりしてカットもされている。			
40	(17) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作り時は何が食べたいか尋ねてみたり、一緒に作れるメニューをチョイスすることで食事を楽しんでいる。後片付けや食器拭きも一緒にやっている。	朝・夕食は職員が作り、昼食は委託業者からの配食である。利用者は遅めの朝食を摂る等、自分のペースで食事を摂り、職員はパンが好きな利用者のためにパンを買い置きしている。ベランダで栽培した芋やネギは食材にし、たこ焼きや餃子等のおやつを利用者と一緒に作り、配膳や片づけをする利用者がある。職員2人が利用者と一緒に同じ食事を食べている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は栄養士による食事提供、朝夕は献立作成から職員による食事作りをしている。パンや米飯を選んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後には声かけや見守りにて口腔ケアを行い、義歯使用の方はポリデントを使用しながら口腔内を清潔にしている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗があっても自尊心に配慮した声かけでフォローしたり、案内が必要な入居者様に関してはサインを見逃さないようにしている。日中は布下着の使用もされている。	排泄は、同性介助を基本としている。日中はトイレでの排泄を支援し、失敗時もさりげなくトイレに誘導している。職員は、日々の介護記録から排泄の間隔や量を個別に検討するとともに、「立ち上がる」や「声を出す」等の利用者のサインを把握して支援している。陰部洗浄にウオッシュレットを活用して、尿路感染が改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時・15時におやつ時間を作り、好きな飲み物を選んで頂き水分補給。便秘傾向の際は腹部マッサージや、ヨーグルトやもずく等お通じに良い食品の提供を行い、最終的に頓服薬にて排便コントロールを行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望時間に入浴されている方、午前・午後浴を選んで頂き入浴されている。シャンプー等も自分の好みの物を持参されていたりして、安心安全・心地よい環境もある。	入浴は、週3回を基本として同性介助に努め、できるところは自分で洗ってもらい、タオルをかける等の配慮をしている。脱衣所はエアコンで温度管理し、入浴の時間は利用者の希望を確認している。負担感への配慮として清拭に変更することもある。入浴後に化粧水等を使う利用者もあり、皮膚の乾燥には保湿剤で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態に合わせ、休息が必要だと感じた際には促している。畳間やソファ等休める場所もある。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師・訪問看護と連携、頓服時も連絡にて指示・アドバイスを頂いている。薬調整等での状態変化にもすぐ気づけるよう、記録や職員間での伝達も行っている。	職員は、処方箋で利用者の薬の内容を把握している。誤薬発生時は、家族に連絡して訪問看護師の指示に従って対応し、その日の出勤者で対応策を検討して事故報告書に記載している。薬剤師を招いて「お薬・誤薬について」の勉強会を実施しており、誤薬発生時は事業所内で勉強会を行っている。	服薬支援に関するマニュアルの整備、及び誤薬に対する職員への更なる周知徹底の取り組みが望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな音楽でのリラックスタイム、出来る所はお手伝いして頂ける家事での役割や趣味の編み物、友人とのランチ外出や週末には外泊等、一人ひとりに合った活動を支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、地域行事に参加したりと、日常的に外出する機会を作るようにしている。	日常的な外出支援として、数人ずつでの周辺の散歩に、利用者全員が参加している。買い物や友人とのランチ、受診帰りの外食、法事や孫の結婚式への出席、美容室に出かける等の外出を支援している。月に1人ずつ、利用者の希望に応じて個別活動プランを作成し、担当職員と1対1で外出や外食をする支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の理解の中で、お小遣いとして金銭の所持や要望があれば一緒に買い物外出に出かけたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されていて自由に連絡し、家族や友人と会話を楽しんでいる姿も見られる。又、正月には写真付き年賀状を作成し、ご家族様に送っている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感、広々とした共用空間がある。畳間もあり、食事やお昼寝等にしようされる事もある。	入口に次亜塩素酸水溶液の噴霧器を設置して事業所内の除菌・消臭をしている。廊下は広く、トイレの案内は見やすい。ソファーや畳間でゆったり過ごす利用者もいる。昼食後、テレビ画面に映し出される日常生活や活動の様子を紹介したスライドの中に、自分の姿を見つけては喜び、表情が緩む利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席、畳間等の各違った雰囲気でご本人様がゆっくり過ごしたり、入居者様同士や家族面会時に、TV鑑賞やレクが楽しめる空間がある。たまに模様替えにてフロアの雰囲気を変えたりもしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅からの使い慣れたベッドやタンス、居室を在宅の頃と同じ作りにならしたいとの希望で畳間にしてみたりと、希望にあった居室のコーディネートがされている。	居室は、ベッドとタンス、洗面所、クーラー、寝具類を事業所で準備している。利用者は、ソファやテレビ等の馴染みの物を持ち込み、自宅で使っていた転倒予防マットを居室で使用している利用者がいる。使い慣れたベッドやタンス、枕、毛布等を持ち込んで自宅と同じ家具の配置にして工夫した部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの案内板や、日時が解るようにカレンダー・時計を共同スペースや目の付く所へ置いて活用している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームふれあい愛知

作成日 : 令和 元年 6月 18日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議は、構成員による事業所運営について必要な要望、助言を聞く場であるため、利用者や家族、地域代表、知見者の参加、及び議事録の公表が望まれる。	地域に開かれた運営推進会議を目指し、誰が見てもわかりやすい議事録の公表を行う。	地域に開かれた会議にするために、地域代表や知見者の参加を促すため、圏域の包括支援センターに自治会長や民生委員を紹介してもらおう。又、会議録は事業所入り口に掲示する。	3ヶ月
2	15	災害に備えて、利用者と職員分を含めた食料の備蓄、及び備品等の準備が望まれる。	災害に備え、利用者と職員が3日間過ごす事が出来る食料、備品の備蓄を行う。	備蓄の保管場所の確保を行い、それを管理する担当を作り、半年に1回食料と備品のチェックを行う。	1ヶ月
3	16	個人情報保護方針、及び利用目的の事業所内への掲示が望まれる。	個人情報の使用目的や保護方針を明確にするため、事業所の入口へ書面で掲示する。	事業所の入口に個人情報保護について記載された書類を掲示する。	1ヶ月
4	20	服薬支援に関するマニュアルの整備、及び誤薬に対する職員への更なる周知徹底の取り組みが望まれる	服薬マニュアルに関するフローチャートを作成し、職員へ徹底する。	服薬に関する勉強会を行い、誤薬発生時の対応方法等が記載されているフローチャートの作成を行い、職員へ周知徹底を行う。	6ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。